

(2) 高齢者の活躍推進

【施策の目的】

人生100年時代を見据え、高齢者が生きがいを持って地域の支え手として活躍できる社会を目指します。

【評価】

<前年度から評価実施年度上期までの成果と課題>

- ・くにびき学園修了生に「わが島根（まち）づくりマイスター」の称号を授与することで、修了生が地域で継続して活動している事例が増えてきている。一方で、入学者数が定員を満たしていない状況が続いている。
- ・豊かな知識と経験をもつ地域福祉の担い手を育成することを目的に老人クラブ活動を支援しているが、県内の老人クラブ数及び会員数は減少傾向にある。
- ・社会との関わりを持ちながら活躍する健康な100歳以上の長寿者を表彰することにより、長寿のすばらしさを県民に周知し、高齢者の生きがいと健康づくりへの意識づくりに寄与した。
- ・生産活動やボランティア活動等を行っている75歳以上の高齢者に「生涯現役証」を交付して顕彰することで、広く県民の生涯現役の意識づくりに寄与した。対象者への取組の周知が進んだことにより交付者数が増加傾向にある一方、応援サービスを行う協賛店舗数は減少傾向にある。

<第2期島根創生計画初年度から評価実施年度上期までの複数年度にわたる成果と課題>

※上記で重複しない成果・課題を記載

この欄は複数年度にわたる成果と課題を記載するため令和9年度から記載

【今後の方向性】

①高齢者の学びの場の充実

様々な広報媒体の活用や公開講座のオンライン開催などを通じ、くにびき学園の活動を高齢者及びその家族に広く周知する。

②高齢者の地域活動への参加促進

くにびき学園に活動推進コーディネーターを配置し、地元市町村、くにびき学園運営協議会の構成団体（福祉関係団体、社会教育関係団体、就労支援団体等）と連携し、修了生と担い手を求める地域や団体とをつなぐ取組を推進する。

また、老人クラブが行っている地域貢献活動等を様々な広報媒体で周知し、会員の増加を図る。

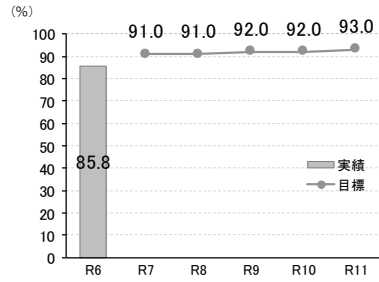
③生涯現役の機運醸成

商工会議所等の会報誌に協賛店舗募集の折り込みを行うなど、生涯現役の取組を多くの事業者にも周知し、協賛店舗の拡大を図る。

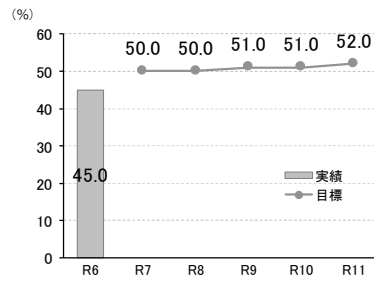
また、地域で活躍されている高齢者の活動情報を新聞紙面等で発信し、県内の幅広い年齢層の方に「高齢者の力を活かせる場所がある」ことを紹介する。

【施策の主なKPIの状況】

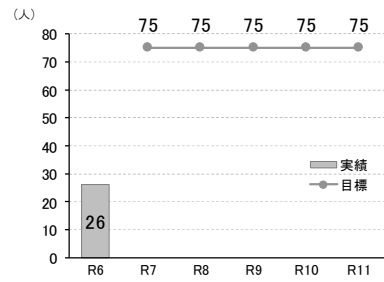
1) 県政世論調査で、現在喜びや生きがいを感じているものがあると回答した70歳以上の者の割合【当該年度8月時点】



2) 県政世論調査で、地域の課題解決やまちづくりに関する公民館等が開催する事業に参加したり、地域で実践活動などに取り組んでいると回答した70歳以上の者の割合【当該年度8月時点】



3) くにびき学園入学者数【当該年度9月時点】



施策の主なK P I

施策の名称		V-2-(2) 高齢者の活躍推進								
番号	K P I の名称	上段は目標値、下段は実績値						単位	計上分類	備考
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度			
1	県政世論調査で、現在喜びや生きがいを感じているものがあると回答した70歳以上の者の割合【当該年度8月時点】	91.0	91.0	92.0	92.0	93.0	%	単年度値		
		85.8								
2	県政世論調査で、地域の課題解決やまちづくりに関する公民館等が開催する事業に参加したり、地域で実践活動などに取り組んでいると回答した70歳以上の者の割合【当該年度8月時点】	50.0	50.0	51.0	51.0	52.0	%	単年度値		
		45.0								
3	くにびき学園入学者数【当該年度9月時点】	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	人	単年度値		
		26.0								
4										
5										

（第2期島根創生計画に掲げる施策の【取組の方向】）

① 高齢者の学びの場の充実

高齢者が、更に活躍の場を広げ、地域に根ざした活動を担ってもらえるよう、学びの場の充実に取り組みます。

② 高齢者の地域活動への参加促進

活動促進コーディネーターの配置などにより、市町村や地域組織、NPO等との連携を強化して、シニア世代の地域活動への参加を促進するとともに、地域活動等をしている老人クラブの活動を支援します。地域づくりに貢献している、又は、貢献することができる高齢者に「わが島根づくりマイスター」の称号を与えることで、地域活動の機運を高めます。

③ 生涯現役の機運醸成

75歳を過ぎても様々な活動をされている方や100歳を超えて健康で活躍している方への顕彰等により、生涯現役の機運醸成を図ります。

事務事業の一覧

施策の名称		V-2-(2) 高齢者の活躍推進				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	生涯現役社会づくり推進事業(県民意識啓発)	県民	心身ともに健康で社会的な関わりを持ち続けながら生活している高齢者に対する認定証の交付や顕彰を通じて、生きがいづくりと健康づくりへの意識を高める。	4,896	13,872	高齢者福祉課
2	互助の仕組みづくり推進事業	老人クラブをはじめとする地域で活躍する高齢者グループや個人	地域社会の担い手として活躍するなど、活動が活性化し、新たな組織化を行う。	51,856	86,357	高齢者福祉課

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

高齢者福祉課

事務事業の名称		生涯現役社会づくり推進事業(県民意識啓発)				
目的	誰(何)を対象として	県民		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	心身ともに健康で社会的な関わりを持ち続けながら生活している高齢者に対する認定証の交付や顕彰を通じて、生きがいづくりと健康づくりへの意識を高める。			4,896	13,872
				うち一般財源 (千円)	1	10,372
令和7年度の取組内容		生涯現役証:75歳以上の高齢者の生きがいと健康づくりへの意識の高揚を図るため、75歳を過ぎても生産活動やボランティア活動を行っている者に交付。 健康超寿者表彰:高齢者の生きがいと健康づくり意識の向上を図るため、100歳以上の現役で活躍する健康な長寿者を顕彰。 高齢者活躍推進情報発信事業:高齢者の活躍推進を進める機運醸成を図るため、健康長寿や生涯現役等の関係事業の情報発信を実施。 高齢者活躍機運醸成事業:高齢者の活躍推進を図るため、実際に地域で活躍されている方々の情報を発信し、県内の幅広い年齢層の方に「高齢者の力を活かせる場所がある」ことを紹介することで、高齢者が地域で活躍する機運を醸成する。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと		高齢者活躍機運醸成事業を新たに実施し、高齢者が地域で活躍する機運を醸成する。				
1	上位の施策	V-2-(2) 高齢者の活躍推進	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	県政世論調査で、現在喜びや生きがいを感じているものがあると回答した70歳以上の者の割合【当該年度8月時点】	目標値			91.0	91.0	92.0	92.0	93.0	%	単年度値
		実績値	82.2	85.8							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2	介護を要しない高齢者の割合(65歳以上で要介護1~5以外の者の割合)【当該年度10月時点】	目標値			90.0	90.0	91.0	91.0	91.0	%	単年度値
		実績値	84.9	85.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・生涯現役証総交付者数(R6年3月末現在):4,512人 県内の75歳以上の高齢者の人口(R6年10月1日現在):131,164人、75歳以上人口に占める交付割合:3.4% ・健康超寿者表彰数(R6年度):7名(総表彰数:93名(H18~))									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・生涯現役証の周知・利用促進に向け高齢者向けタブロイド紙等で広報を行った。 ・現役で活躍する健康な100歳以上の長寿者を顕彰することができ、高齢者はもとより、広く県民の生涯現役の意識づくりに寄与できた。
課題分析	① 課題	ア)生涯現役証の発行割合は75歳以上の方の約3.4%という状況であり、広がりを欠いている。 イ)国にも100歳の高齢者に一律に記念品等を贈呈する事業があり、元気な100歳以上の高齢者という県事業の趣旨が分かりにくくなっている。 ウ)実際に地域で活躍する高齢者は多数おられるが、その活動について県内での認知が広まっておらず、高齢者活躍促進の機運醸成に繋がっていない。
	② 原因	ア)生涯現役証交付事業の目的や仕組みの認知が不十分である。 イ)県の顕彰事業の趣旨(長寿であることはもとより現役で活躍していること)が十分に発信されていない。 ウ)地域で活躍する高齢者の活動が十分に発信されていない。
	③ 方向性	ア、イ)生涯現役証、健康超寿者表彰ともに、魅力的な取組となるよう、より効果的かつ効果的なPRとなるよう、高齢者向けタブロイド紙や商工会議所のPR誌での広報などを活用し、一体的な広報を行う。 ア、イ)生涯現役証について、情報発信と一体的に実施することで、より効果的に生涯現役の機運醸成を図るため、引き続き民間委託の可否を検討する。 ウ)地域で活躍されている高齢者の活動情報を発信し、県内の幅広い年齢層の方に「高齢者の力を活かせる場所がある」ことを紹介する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

高齢者福祉課

事務事業の名称		互助の仕組みづくり推進事業			
目的	誰(何)を対象として	老人クラブをはじめとする地域で活躍する高齢者グループや個人	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	地域社会の担い手として活躍するなど、活動が活性化し、新たな組織化を行う。		うち一般財源 (千円)	51,856
令和7年度の取組内容	①老人クラブの助成、②老人クラブ等活動推進事業：老人クラブ活動の活性化を図るため、県老人クラブ連合会に対して推進員の設置や活動に必要な経費を支援。市町村老人クラブ連合会の活動支援を通じて高齢者の社会参加の促進を図る。 ③高齢者大学校運営事業：くびき学園を適切に運営し、継続的な学習の場を確保するため、県社会福祉協議会に対し、運営に係る経費を補助。 ④健康福祉祭運営事業：県健康福祉祭の開催と全国健康福祉祭への選手派遣を円滑に行うため、県社会福祉協議会に対し、県大会開催や派遣に係る経費を補助。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと	高齢者向けタブロイド紙等(しまねすまいるdays)により学園の取り組みの紹介や学生募集等の広告(テレビ・ラジオ等)を実施。くびき学園運営協議会を東部・西部にそれぞれ設置し、担い手を求める地域や団体とを繋ぐコーディネーターをセット。また、修了生に対して「わが島根(まち)づくりマイスター」の称号を授与し、地域づくりの機運醸成を図った。				
1	上位の施策	V-2-(2) 高齢者の活躍推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	くびき学園入学者数【当該年度9月時点】	目標値			75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	人	単年度値
		実績値	36.0	26.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2	県政世論調査で、地域の課題解決やまちづくりに関する公民館等が開催する事業に参加したり、地域で実践活動などに取り組んでいると回答した70歳以上の者の割合【当該年度8月時点】	目標値			50.0	50.0	51.0	51.0	52.0	%	単年度値
		実績値	40.3	45.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・地域社会の中核的な高齢者グループである老人クラブの活動や、地域活動の担い手となる高齢者の育成及び高齢者スポーツ・文化活動に対する支援を行っている。 県内の単位老人クラブ数：676クラブ(R7.3.31現在)、県内の単位老人クラブ会員数：24,246人(R7.3.31現在) ・健康福祉祭が鳥取県で開催され162名が参加。ターゲット・バードゴルフで優勝するなど好成績を収めることができた。 ・わが島根(まち)づくりマイスター授与者数：146名(R4～)									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・老人クラブ数及び会員数は減少しているが、健康づくり推進員(介護予防、閉じこもり予防など地域の高齢者に対する健康づくり活動を推進する実践者)は毎年度養成しており、年々増加している。 ・くびき学園の在学学生、修了生による地域貢献活動、同窓ネットワーク組織の活動が実施された。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点 ア)くびき学園修了生が、担い手を求める地域で継続して活動している事例がまだまだ少ない。 イ)くびき学園の入学者数が定員を満たしていない状況が続いている。 ウ)一部の老人クラブを除き、活動が衰退してきている。 エ)健康福祉祭の参加者が特定の個人や団体に固定化しつつある。
	② 原因	ア)くびき学園修了生を地域活動の担い手と捉え、地域に繋ぐ仕組みが不足している。 イ)くびき学園の認知度が低い ウ)老人クラブに必要な人材の確保ができていない。 エ)健康福祉祭の認知度を高める取り組みや、意義を伝える取り組みが不足している。
	③ 方向性	ア)わが島根づくりマイスターの称号授与や、くびき学園運営協議会やコーディネーターを活用したフィールドワークやタウンミーティングなどを通じて、修了生と担い手を求める地域や団体に繋ぐ取組を推進する。 イ)様々な広報媒体の活用や公開講座のオンライン開催などを通じ、くびき学園の活動を高齢者及びその家族に広く周知する。 ウ)地域の助け合い活動や地域住民の互助のつながりの場において、島根県老人クラブ連合会等の関係団体と連携し、老人クラブが行っている地域貢献活動等を高齢者向けタブロイド紙(しまねすまいるDays)等の広報媒体で周知し会員の増加に繋げる。 エ)健康福祉祭のうち美術展の選考方法について、より多くの高齢者が参加できるよう新たな選考方法を検討する。

